

提 言 書

地域高規格道路

有明海沿岸道路(Ⅱ期)の

「計画路線」指定について



(荒尾市上空)

有明海沿岸道路建設促進熊本県期成会

地域高規格道路

有明海沿岸道路(Ⅱ期)の

「計画路線」指定について

(現況と課題)

活力ある各種産業、豊富な自然環境や歴史資源に溢れる有明海・八代海の両沿岸地域の相互連携や交流を目指すため、熊本天草幹線道路や南九州西回り自動車道等と一体的に循環型ネットワークを形成する路線として、地域高規格道路「有明海沿岸道路(Ⅱ期)」は、平成10年6月に「候補路線」に指定されましたが、いまだそのままにあります。

その一方、福岡及び佐賀の両県を結ぶ「有明海沿岸道路」については、大牟田市から鹿島市までの計画延長約55kmうち、平成20年3月に大牟田ICから大川中央ICまでの23.8km区間が暫定供用されて以降、平成23年3月には嘉瀬南ICから久保田ICまでの1.7km区間、さらに平成24年1月には、三池港ICから大牟田ICまでの1.9km区間が供用するなど整備が進んでいます。【計27.4km】

地域経済の活性化、また更なる九州地域の発展を図るため、九州各地域が持つ特性を活かしつつ、広域にわたる連携や交流を促進し、戦略的視野を東アジア地域まで広げることが重要であり、そのためにも佐賀・福岡から延びる有明海沿岸道路(Ⅱ期)の整備は有明海・八代海の両沿岸域を結ぶ循環型ネットワークを図る路線として急務となっております。

また、先の東日本大震災では高規格幹線道路等が救助活動や支援物資の輸送を可能にするとともに、一部の区間では津波を防ぐ二線堤の役割を果たしたとの報道もありました。本地域は、過去に「島原大変肥後迷惑」と呼ばれる、島原半島の眉山が崩壊して引き起こされた大津波により、1万人を超えるといわれる人命が失われる大災害を経験しており、「有明海沿岸道路(Ⅱ期)」は災害時の「命の道」としての役割も期待されております。

(整備の効果)

この地域高規格道路「有明海沿岸道路（Ⅱ期）」が整備されることにより、有明海・八代海における沿岸主要都市とのアクセスが改善されるのみならず、沿岸地域の企業立地環境の向上・新たな観光ネットワークの形成及び広域的な環状ネットワークの一部を構成することによる九州の一体的発展の促進、さらにはアジアとの交流・流通拠点としての役割が期待されます。

また、国道3号・国道208号の渋滞緩和によって、産業活動の活発化や二酸化炭素等の排出削減による地球温暖化環境が改善されるほか、災害・緊急時の緊急輸送路や避難路としての機能が期待されます。

つきましては、次の事項について特段のご配慮をお願いいたします。

- 有明海沿岸道路（Ⅱ期）の計画路線への指定を図られること。
- 有明海沿岸道路（Ⅱ期）の整備を推進するため、必要な予算を確保すること。

有明海沿岸道路建設促進熊本県期成会

会 長 熊本市長 幸 山 政 史



有明海沿岸道路建設促進熊本県期成会

熊本市・荒尾市・長洲町・玉名市・宇土市・地元経済界